

1. 評価結果概要表

作成日

平成 21 年 5 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400295		
法人名	有限会社 笑苑		
事業所名	グループホーム 笑苑		
所在地	福岡県太宰府市高雄 1-3664-258 〒 818-0122 (電話) 092-918-0808		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年5月20日	評定確定日	平成21年6月26日

【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 9 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人	非常勤 3 人 常勤換算 10.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての～ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(200,000 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,000 円程度			

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

登録人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	0 名	要介護 2	0 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	4 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中川医院、別府内科クリニック、筑紫野歯科クリニック、小西第一病院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者の揺ぎ無い思いと人柄が相まって、多岐の分野にわたる数多くの人々との縁に支えられながら「自分らしく心豊かに」生活できるよう日々取組んでいる。日々のかかわりの中で利用者一人ひとりが持つ生活機能を把握し、利用者の言動の中に隠れている思いを捉え、介護計画書に反映させてケアに取組むなど、常に利用者の目線にたった個別支援が行われている。様々な勉強会、研修会への参加や事例を基にした事業所内での勉強会への取組み等、職員の教育・育成に力を入れている。また、子育て支援事業への取組み(育児休暇の取得等)や小さい子供を持つ職員への配慮など、職員が安心して働き続けることができる環境作りを実践している。人と人との縁の深まりとともに、地域の核となりつつあるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、ミーティングにて話し合うなど、質の向上にむけた取組みがある。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 主任が中心となり、他の職員と話し合いながら自己評価を行うなど、全職員がかかわっての取組みがある。この過程において、たよりの作成を再開する方向で検討が進んでいる。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 行政職員、地域包括支援センター職員、自治会長、老人会会長、民生委員、家族等の参加のもと、2ヵ月毎の開催がある。活動状況からヒヤリハットに至るまで幅広い報告内容であり、家族や地域代表の方から行政へ意見が出されるなど、活発な会議の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時に利用者毎の写真や介護記録を提示しての説明を行ったり、家族会時には運営推進会議の報告やプロジェクターを使用した行事の様子等の報告を行っている。家族面会時に、職員からの声かけにより家族の意見や要望などを表出するように努め、出された意見や要望は、その都度協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域夏祭りへの参加、保育園への見学、ホーム行事への近隣住民の参加、管理者の知人から頂いた野菜を近隣へお裾分けしたり、近隣の方からお花を頂くなど、普段着の付き合いが行われている。また、職員が地域活動へ参加し、その際に地域住民の相談に応じたり情報交換を行うなど地域との連携が見られる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく心豊かに住み慣れたわが町で生 きていくお手伝い」を理念として掲げ、地域と の普段着の交流やその人らしく心豊かに生活す ることを常に意識しながらの取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の理念の唱和、理念に基づいた介護計画 書の作成及び理念を意識しながら日々のケアに 携わるなど、理念の実践に向けての取り組みがあ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域夏祭りへの参加、保育園への見学、ホー ム行事への近隣住民の参加、管理者の知人から 頂いた野菜を近隣へお裾分けしたり、近隣の方 からお花を頂くなど、普段着の付き合いが行わ れている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	主任が中心となり、他の職員と話し合いなが ら自己評価を行うなど、全職員がかかわっての 取り組みがある。この過程において、たよりの作 成を再開する方向で検討が進んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職員、地域包括支援センター職員、自治会長、老人会会長、民生委員、家族等の参加の基、2ヵ月毎の開催がある。活動状況からヒヤリハットに至るまで幅広い報告内容であり、家族や地域代表の方から行政へ意見が出されるなど、活発な会議の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県グループホーム協議会と行政との交流会のほか、全国グループホーム協議会との情報共有化に向けての取組みの一環として厚生労働省へ赴くなど、幅広い取組みがある。運営推進会議への行政職員や地域包括支援センター職員の参加、保護課担当者の来訪が見られる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、グループホーム協議会での勉強会を通じて、制度について学び・理解を深める取組みがある。制度について様々な事例を持ち、運営推進会議時に制度についての話題が出るなど、必要な時にはすぐ支援できる体制がある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者毎の写真や介護記録を提示しての説明を行ったり、年2回の家族会時には運営推進会議の報告やプロジェクターを使用して行事の様子等の報告を行っている。たよりの作成は、以前行っていたが現在は休止しており、今後再開する予定である。		家族からの意見を反映して、たよりの発行を今後再開する予定とのことです。今後、定期的・継続的なたよりの発行が行われるような取組みに期待します。
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に職員からの声かけにより、家族の意見や要望などを表出するように努め、出された意見や要望は、その都度協議するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や職員の離職はなく、利用者との馴染みの関係が継続して構築されている。余裕を持った職員体制に取組み、新しい職員が入職した場合は、パートから始まって勤務日数を増やしたり、先輩職員が指導を行うなど、馴染みの関係づくりへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、何らの制限は行われていない。職員の経験等により各種資格取得へ向けての支援、障がいのある方を雇用するなど、職員の育成に力を入れている。また、育児休暇の取得や小さい子供を持つ職員への配慮など、職員が働きやすい環境作りへの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各ブロック毎の勉強会、県グループホーム協議会での勉強会、行政との連携による研修部会等への参加を通じて、幅広い視点での人権について学んでいる。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画にそっての研修会の実施、多くの外部研修の機会を確保し、希望や経験等を考慮しての研修参加などの取り組みがある。また、各種資格取得に向けた支援が行われている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会やブロック別グループホーム協議会、医療介護ネットワークなどで開催される勉強会や研修会への参加を通じて、他の事業所職員との交流・情報交換が行われている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	おやつ時間の利用から始め、利用時間を徐々に増やしていくなど、顔なじみの関係を構築するための取組みがある。新規入居時は、職員がマンツーマンで対応するなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援体制がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の言動の中に隠れている思いを捉え、利用者の言葉から自分のケアを振り返るなど、日々のかかわりを通じて、精神的な部分で常に学び支えあう関係作りに配慮している。畑の作り方や漬物の浸け方など、自然と学び支えあう関係づくりへの取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で利用者の意向や思いを把握し、家族面会時の声かけ等により家族の意向や希望の把握がある。困難な利用者に対しては、利用者の言動の中に隠れている思いを捉えるように努めるなど、利用者の目線にたったの検討が行われている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報源としてセンター方式を活用し、担当職員が介護計画書を作成し、月1度のカンファレンスにて協議するなど、全職員がかかわりながらの介護計画書の作成がある。本人のしたい事や出来る事を尊重し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎朝の申し送り時に、利用者の言動の中に潜 んでいる“何か”について協議しながら、毎日 の状況変化についての確認が行われている。ま た、月に1度のケアカンファレンスにて情報交 換と確認が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	入退院時にかかる対応、県外にある以前住ん でいた自宅への見学、医療管理が必要な利用者 の受入れなど、利用者の状況や希望、その時々 々の要望により柔軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	以前からのかかりつけ医を基本としており、 受診はホーム対応で行っている。訪問歯科の利 用、泌尿器科の医師の往診が見られ、地域にあ る多数の病院との連携を図るなど、適切な医療 受診への配慮がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時にリビングウィルの確認（生前意思確 認）を行い、看取りに関する指針について同意 を得ている。利用者の状況に応じて、カンファ レンスにて情報共有を行うなどの取組みがあ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	トイレの中に利用者毎のパットを準備した り、その時々に合わせて声かけなど、利用者一 人ひとりのプライバシーを尊重した対応が見受 けられた。記録等は決められた場所で適切に保 管されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての一応の流れはあるものの、 日々の過ごし方、食事のペース、食後の過 ごし方など、日常生活全般において、その 時々での利用者の希望やペース、状況等 を尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員は利用者に寄り添い、食事への声かけ や食器を入れ替える際は冗談が聞こえる など、明るい雰囲気の中での食事風景 であった。頂いた野菜類をメニューに 取り入れ、見た目や季節を意識し、食 事が楽しみとなるような取り組みがあ る。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めて しまわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめる ように支援している	基本的に一日おきの入浴であるが、お 風呂の準備は毎日行い、利用者の状 況や希望に応じて柔軟に対応してい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	月に1度抹茶を味わったり、プランターの草 花への水やり、衣類の整理、ベランダでの日光 浴など、利用者のしたい事や思いをくみとり、 楽しみごとや心地よいつ感じてもらうための取 組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそつて、戸外に出 かけられるよう支援している	初詣や山笠見物、温泉、季節の花の見物、防 犯パトロール、その時々々の希望に沿つた外出な ど、柔軟な対応が見受けられる。外出が困難と 思われる利用者の方も、テラスにて五感へ働き かける工夫がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠されており地域包括支援センターのケ アマネの方が立ち寄られるなど、気兼ねなく出 入りできる。職員は利用者の状況を把握し、利 用者と一緒に出外するなどの対応がある。ま た、地域住民との連携が図られるなど、利用者 の自由な暮らしと安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	防犯パトロールへの参加を通じて、地域住民 への声かけが行われている。年2回の避難訓練 が行われており、避難訓練に地域住民の方が見 学に来られるなど、地域との連携が図られてい る。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士の免許を取得している職員によって、 カロリーやバランス等を考慮した献立の作成が ある。食事摂取量や水分摂取量の把握を行つて いる。必要に応じて、水分の摂取量と尿量の チェックを行つたり、ミキサー食を準備するな ど、柔軟な対応が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは吹き抜けとなっており開放感 がある。また、ホーム内は段差がなく安全に移動 できる。プランターには季節の草花が咲き、テ ラスでは自然の風を感じることができる。リビ ングにはソファや畳のコーナーを設けるな ど、好きな場所で自由に過ごせる工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室は、仏壇、箆笥、テレビ、ぬいぐるみな どの思い思いの品が持ち込まれており、畳敷き の居室も見受けられるなど、利用者が安心して 過ごすための支援がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号